

水稻の初期生育状況（6月24日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2022年6月28日

1 生育状況

6月24日現在の水稻の生育状況は、平年値(2012～2021年までの過去10年平均)と比べて、表1のとおりです。

表1 水稻の生育状況(6月24日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ*	5月下旬から 6月上旬	長い	同等	同等
キヌヒカリ	5月下旬から 6月上旬	同等	同等	同等
てんこもり**	6月上旬	やや長い	同等	同等

*2014～2021年までの過去8年平均との対比、**2018～2021年までの過去4年平均との対比

2 栽培上の留意点

気象庁が6月23日に発表した1か月予報(6/25～7/24)は、気温は「高い」、降水量は「平年並から少ない」、日照時間は「多い」となっています。今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

(1) 水管理

苗が活着してからは、分げつを促進するために、浅水(概ね2～3cm)で管理しましょう。

(2) 中干し

中干しは、過剰分げつ抑制と根への酸素供給、田面を固め倒伏を予防するために実施します。最高分げつ期ごろから5～7日程度水を切り、田面に軽いひび割れができる程度に干しましょう。

(3) 雑草防除

県内全域で藻類の発生が目立っています。藻類が多発すると、地温の低下等により水稻の生育が抑制されることがありますので、一時的に水を落としたり、藻類に適用がある除草剤を施用します。

ノビエ【写真1】、ホタルイ【写真2】、コナギ、オモダカ、クログワイ、クサネム【写真3】等が残草した場合、中期剤・後期剤を施用します。



ノビエ【写真1】



ホタルイ【写真2】



クサネム【写真3】

(4) 病虫害防除

病虫害の発生源となる余り苗は水田に放置せず早急に除去しましょう。水田周辺の雑草についても除草を徹底しましょう。

ア スクミリングガイ (ジャンボタニシ) 【写真4、5】

スクミリングガイの発生地域が拡大しています。スクミリングガイのほ場内への侵入を防ぐため、水口と水尻には6～9mm目合いの網を設置しましょう。また、スクミリングガイの密度を減らすために、水田や水路に貝を発見したら捕殺し、ピンク色の卵(卵塊)は潰しましょう。

イ トビイロウンカ 【写真6】

今年は、4月下旬に宮崎県で、5月下旬には静岡県で飛来が確認されています。今後の気象条件によっては、飛来量が多くなる恐れがあります。特に、ウンカ類に登録のある育苗箱施薬剤をしていない場合は、今後の発生状況に注意しましょう。

ウ その他

その他の病虫害対策については、病虫害防除部が発信している「令和4年度病虫害発生予察情報」を参照してください。

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2022_3_31.html



スクミリングガイ 【写真4】 スクミリングガイの卵塊 【写真5】 トビイロウンカによる坪枯れ症状 【写真6】

【参考】

表2 農業技術センター(平塚市)での過去10年(2012～2021年)平均値

作期	品種名	中干し時期	穂ばらみ期	出穂期
6月 日植	はるみ	7月11日～16日頃	7月26日～8月10日頃	8月10日
	キヌヒカリ	7月10日～15日頃	7月25日～8月9日頃	8月9日
	てんこもり	7月17日～22日頃	8月1日～8月16日頃	8月16日*
6月 17日 植	はるみ	7月17日～22日頃	8月1日～8月16日頃	8月16日**
	キヌヒカリ	7月16日～21日頃	7月31日～8月15日頃	8月15日
	てんこもり	7月20日～25日頃	8月3日～8月19日頃	8月19日*

- ・ 穂ばらみ期は、出穂期約15日前～出穂期までの期間。水稻が最も水分を必要とする時期なので、水田の水位を十分に保つようにする。
- ・ *2018～2021年(4年平均)のデータに基づく。**2012、2015～2021年(8年平均)のデータに基づく。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課

TEL: 0463-58-0333 内線381～384 FAX: 0463-58-4254